

IAMAS 2019

情報科学芸術大学院大学 第17期生修了研究発表会・プロジェクト研究発表会



ご挨拶

このたび、IAMAS（イアマス）は「IAMAS 2019」と題して、第17期生による修了研究発表会および2018年度のプロジェクト研究発表会を開催します。

IAMASでは、芸術、工学、デザイン、社会学といった様々な専門領域を持つ人が、他の領域に跨って制作・研究を行っています。その集大成として制作した修士研究作品の数々をここに発表します。

また、学生の修士研究作品発表と並んで、プロジェクト研究発表会を同時に開催します。

プロジェクト研究では、教員と修士1年を中心とした学生による、様々な領域を包摂した研究成果を複数展示します。

「IAMAS 2019」は学生の修了研究発表に併せて、本学の研究活動を同時にご覧頂ける、IAMAS全体の展覧会でもあります。

このようにして生まれた多種多様な分野の研究成果、並びに本学の活動をより多くの方に知っていただきたく、何卒本展の告知、ならびにご来場・ご取材のご検討をお願いいたします。

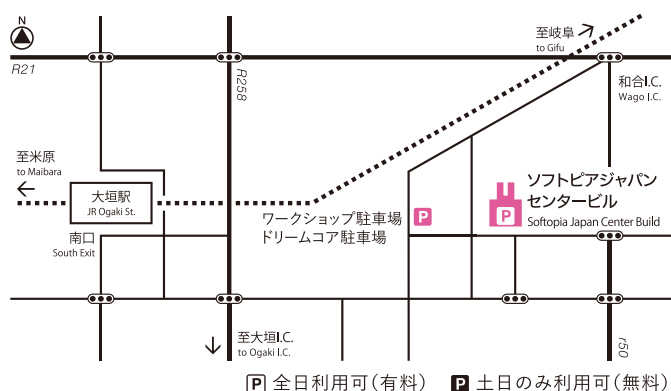
IAMAS 2019 実行委員長 野呂祐人

開催概要

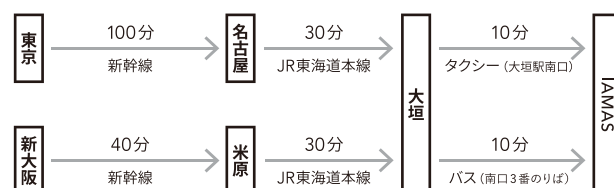
- [日 時] 2019年2月21日(木) - 2月24日(日)
10:00-18:00(初日のみ13:00から18:00まで) [入場無料]
- [会 場] ソフトピアジャパン・センタービル 岐阜県大垣市加賀野4丁目1-7
- [公 式 情 報] <https://www.facebook.com/IAMAS.GraduationExhibition/>
- [主 催] 情報科学芸術大学院大学 [IAMAS]

IAMAS 2019は「場違いの場所で」というテーマで開催します。科学的知性と芸術的感性の融合を掲げる本研究科においては、自身の専門を軸にしつつも、異なる領域に積極的に足を踏み入れることが求められます。またそれは自身の領域の視点から、他の世界を捉えることに繋がります。その活動は、まるで「場違いの場所」に赴く行為のようでした。私たちは自身の専門領域による視点を忘れずに持ち続け、その上で他の領域を見渡しています。そして既存の価値観に埋もれて切り捨てられてしまったものを拾い上げ、表現を通して新たな疑問を投げかけています。そのようにして生まれた表現は、その領域にある文脈を正当に受け継いだものばかりではありません。私たちはそのことを自覚的に、あえて「場違いの場所」に身を置くように、制作・研究を行ってきました。そのように一人一人が領域を跨いで独自に紡いできた文脈を含め、本展覧会をご高覧いただけたら幸いです。

IAMAS(情報科学芸術大学院大学)は、岐阜県の情報産業拠点ソフトピアジャパンプロジェクトの一環として、1996年に岐阜県立国際情報科学芸術アカデミーとして開学し、2001年に修士課程のみの大学院大学として設立された学校です。充実した講師陣による少数定員の大学院大学として海外にも広く知られ、英文名称 Institute of Advanced Media Arts and Sciences からIAMAS(イアマス)と呼ばれています。芸術と科学の融合を建学の理念に掲げてスタートしたIAMASは、最新の科学技術や文化を吸収しながら、新しいものづくりやデザイン、先端的な芸術表現などを社会に還元する高度な表現者の育成を目指しています。IAMASの教育の先端性は、工学、デザイン、芸術、人文学など、様々な異なる分野の学生たちによるユニークな研究を生み出します。専門性を習得し、様々な知を統合し、それを新たな領域まで拡張することによって、修了後は表現者として社会における新しい領域で活動し、それを展開する能力を身につけます。



国道 21 号線 和合 IC から車で約 2 分・名神高速道路 大垣 IC から車で約 20 分
岐阜羽島 IC から車で約 25 分



IAMAS 事務局 MAIL : event@ml.iamas.ac.jp TEL : 0584-75-6600 FAX:0584-75-6637

第17期修了研究発表者

アン セビン / 飯島 祥 / 荏原 洋夢 / 尾焼津 早織 / ギン イギョン / 小寺 諒
後藤 祐希 / 小濱 史雄 / 竹村 望 / 棚原 みずき / チェ ション / 平瀬 未来
中路 景暁 / 野呂 祐人 / 箕浦 慧 / 湯澤 大樹

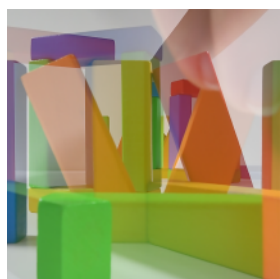
作品紹介

※IAMAS 2019で発表される作品の一部になります



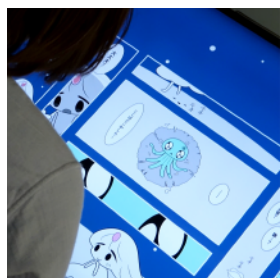
モノトーク 野呂 祐人

モノトークは、造形行為を通じて他者と繋がる体験をするワークショップである。複数人でペアやチームを作り、「会話をしない」というルールを設け、一つのカタチを一緒に作る。言葉による明確な意思疎通をしなくても、互いの造形表現を重ねていくことで、他者と関わるができる場を共有する。



Translucent Objects 平瀬 未来

ある出来事を2台のカメラで表裏から撮影し、その2つの映像を不透明度50%の状態にし、重ね合わせた映像である。撮影された物体は半透明の状態となり、2つの映像内の物体の位置が重なり合うことで不透過の部分が現れる。この不透過の部分を「メディア空間における彫刻」とし、メディアを通してモノを見ることを再考させる。



宇宙人、ひとり。/メリー・ゴー・ラウンド 尾焼津 早織

従来とは異なるマンガのコマ割りと、読み順に沿ったカメラワークを組み合わせたモーションコミック（マンガを元にした映像作品）手法を用いた作品。本作は、異なる永遠の在り方を描いた連作を、それぞれ違うコマ割りとカメラワークで表現している。



ダンスパフォーマンス「ἔθoς」 箕浦 慧

「ἔθoς(エートス)」はメディアテクノロジーを織り交ぜた48分の舞踊作品である。仮想空間において3Dポリゴンのダンサーに振付けを行い、それを映像として現実空間に再帰させ実際のダンサーと共演させることに挑戦している。現実と仮想現実の間に生まれる新たな身体に祝福を込めてこの作品を提示する。



Human-Framed Cycle チェ ション

Human-Framed Cycleは、右脚の裏側の面積を使って、後ろ方向に自走する自転車である。この作品を体験しながら得られる身体感覚は、普段のものとは離れたものになり、体験者は、未知の道具に接するとき現れる自分の身体的な癖に直面したり、自らの知覚を見直すことになる。

プロジェクト研究発表

プロジェクトは修士研究を行う枠組みとしての役割を果たす重要な科目です。メディア表現の社会的な意味をはかり、社会へ向けた成果の発信や外部との連携を強く意識し、領域横断的に運営されます。協働活動によって複数の領域のノウハウ、経験を効果的に統合し、より高度な研究成果、技術開発を目指すところにあります。また、広い視野と企画力、組織力、加えてアイデアを実現にまで導くマネジメント能力などを身につけることを目指します。「IAMAS 2019」では修士研究発表に加えて、これらプロジェクト研究の成果を展示します。

出展プロジェクト

アートを／で考えるプロジェクト / あしたをプロトタイピングするプロジェクト / あたらしいTOYプロジェクト
 移動体芸術、現実感芸術、Critical Cycling / 体験拡張環境プロジェクト / タイムベースドメディア・プロジェクト
 根尾コ・クリエイション / 福祉の技術プロジェクト / 池田町有線放送電話プロジェクト
 これからの創造のためのプラットフォーム / メディア表現学研究プロジェクト

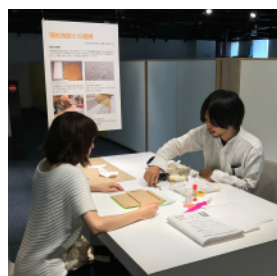
プロジェクト研究発表紹介

※IAMAS 2019で展示するプロジェクトの一部となります



あたらしいTOYプロジェクト

本プロジェクトでは異なる専門、バックグラウンド、テーマを持つ参加学生同士が互いにディスカッションしながら新しいクリエイションのあり方を探っている。プロジェクトの本年度の活動報告と、参加学生それぞれのプロジェクト内外での活動や作品、プロセスを紹介する。



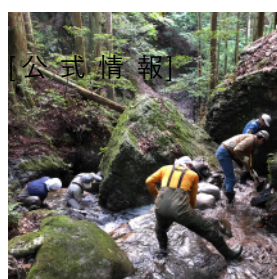
福祉の技術プロジェクト

プロジェクトで訪問した時に、作業会で封筒を製品化する工程について見学・意見交換をさせてもらった。その際にいくつかの試作が出来上がったので、それらの展示や現在メンバーが考えているテーマなどについても紹介する。



あしたをプロトタイピングするプロジェクト

愛知県児童総合センターにて実施した「メディア実験室」では、子どもと大人に向けてふたつの作品を制作し、遊びを通じたプログラミング的思考を考える場を試行した。それらの活動の結果を紹介する。またプロジェクトの他の活動についても紹介する。



根尾コ・クリエイション

今年度は「根尾の生きるための技術」をテーマにフィールドワークを実施してきた。それは、生きるために住民たちが創造した仕組みや表現活動、そして、それを長い年月伝え使い続けていく技術である。展示では集落の水分配、地元の長老たちが語る村、何百年と続く神事などから、自立的生活の技術をみせる。

主なイベント (1/2)



問題を引き受け、伝えること ゲスト：高嶺 格

北朝鮮から漂着した船舶のこと、原発の問題、在日韓国人のことなど、自身が出会った経験や問題意識を作品の中で扱い、様々なメディアを用いて表現している高嶺格氏をお迎えします。IAMASの学生数名と共に、ある問題を引き受け、それを芸術として表現する意味や、自分の経験や身体と地続きに作品を作ることについて議論していきます。

ゲストプロフィール：1968年鹿児島生まれ、1991年京都市立芸術大学漆工専攻卒、1999年IAMAS卒、現在秋田公立美術大学教授。活動：美術作家。大学在学時からアーティスト集団「ダムタイプ」に参加。国内外の展覧会・演劇祭への出品多数。作品は、パフォーマンス、映像、インスタレーション、写真、立体など機会に合わせてメディアを変える。また社会問題にコミットするもの／そうでないものが混在する。単著に「在日の恋人」(河出書房新社)

主催：IAMAS 2019 実行委員会



最適化が進む"明るい"未来 ゲスト：若林 恵

現在、SNSや検索エンジンにより、情報が個人に最適化され、予め自分に合わせ絞られた情報のみが提示されるフィルターバブル(自分の見たい情報しか見えない状況)が起きています。本トークイベントでは、雑誌、書籍などの編集や音楽ジャーナリストとして活動し、昨年『さよなら未来』を出版した元WIRED編集長の若林恵氏をお迎えし、最適化されていく未来における私たちの生き方について議論を行います。

ゲストプロフィール：1971年生まれ。編集者。ロンドン、ニューヨークで幼少期を過ごす。早稲田大学第一文学部フランス文学科卒業後、平凡社入社、『月刊太陽』編集部所属。2000年にフリー編集者として独立。以後、雑誌、書籍、展覧会の図録などの編集を多数手がける。音楽ジャーナリストとしても活動。2012年に『WIRED』日本版編集長就任、2017年退任。2018年、黒鳥社(blkswn publishers)設立。著書『さよなら未来』(岩波書店・2018年4月刊行)、責任編集『NEXT GENERATION BANK 次世代銀行は世界をこう変える』(黒鳥社／日本経済新聞出版社・2018年12月刊行)。https://blkswn.tokyo

主催：IAMAS 2019 実行委員会



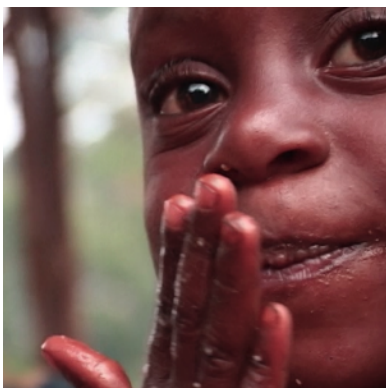
Photo by Tsutomu Niki

日常から表現へ ゲスト：石川 将也

日常の中には多くの表現のヒントとなる要素が存在しています。「スマートフォン」といったカメラは、個人が思い思いに日常の出来事を記録することを可能とし、ソーシャルメディアはそれらの記録を全世界の人々に共有することを可能にしました。私達が普段目にする日常に加え、オンラインの中に存在する日常的なシーンの中におもしろさを発見し、それを探求し表現として扱うことについて、クリエイティブグループ「ユーフラテス」に所属する石川将也氏をお招きしトークを行います。

ゲストプロフィール：ユーフラテス 所属。グラフィックデザイナー / 研究員。1980年生まれ。慶應義塾大学佐藤雅彦研究室を経て、2006年より現職。代表作に書籍『差分』(佐藤雅彦・菅俊一との共著、美術出版社)、大日本印刷『イデアの工場』や「Eテレ2355」内「factory of dream」を始めとする「工場を捨象したアニメーション」、「Layers Act」(阿部舜との共作、21_21 DESIGN SIGHT 企画展「AUDIO ARCHITECTURE: 音のアーキテクチャ展」に出展)など。科学映像「未来の科学者たちへ」シリーズやNHK Eテレ「ピタゴラスイッチ」の「ねじねじの歌」、「Eテレ2355」の「そうとしか見えない」を始め、ユーフラテスの一員として作品制作に携わっている。

主催：IAMAS 2019 実行委員会



映像表現と人類学 ゲスト：分藤 大翼、前田 真二郎

近年、アートと人類学の接続可能性が議論されていますが、「映像メディア」を表現手段としてアートと人類学が相互に影響し合い、どのような表現が生まれ得るでしょうか？ 映像人類学者の分藤大翼(信州大学准教授)と映像作家の前田真二郎(IAMAS教授)を迎え、議論します。司会は本プロジェクトの前林明次(IAMAS教授)が努めます。

主催：これからの創造のためのプラットフォーム

今、「創造的であること」とはどういうことなのか？このプロジェクトでは、アート、デザイン、思想等、あらゆる領域の実践者の知見に触れながら現代社会の課題を考察し、思考の可動域を広げ、これからの時代の「創造」のあり方を探る。さまざまな分野を横断するレクチャー・シリーズの開催を軸に、トークイベントや展示などの活動も展開し、広く地域の方々との交流の接点をつくりだしていく。さらにレクチャー等の活動記録はウェブ上で発信していく。

主なイベント (2/2)



境界とアート ゲスト：加須屋 明子、西山 恒彦

「境界とアート」では、京都市立芸術大学教授の加須屋明子氏と岐阜県美術館学芸員の西山恒彦氏をゲストでお迎えし、IAMAS修士2年のアンセピンと共に、世界の様々な境界とそれらの地域を背景とするアート作品をとりあげ、現代における作品制作について考えます。

主催：Art Thinking Project (ATP)

「アートを／で考えるプロジェクト」は、アート作品の発表や展示企画、パフォーマンス、批評など、学生の多様なアートの実践と研究を支えるためのプロジェクトである。プロジェクトは、それぞれの活動のプレゼンテーション、文献購読、展覧会の鑑賞と批評を中心にゼミ形式で進められる。



YCAM vs IAMAS ゲスト：伊藤 隆之、菅沼 聖、城 一裕

メディア・テクノロジーを用いた新しい表現や学びを探索し、次世代の人材育成を担う山口情報芸術センターことYCAM。その独自性と創造性の高い活動は国内外でも注目を集めています。IAMASにとっても常に重要な存在であるYCAMが将来をどう見据え、どこを目指していくのか。今回YCAMより伊藤隆之氏と菅沼聖氏を、また元IAMAS教員で現YCAM専門委員の城一裕氏をお招きし、三輪眞弘学長とトークしていきます。

主催：産業文化研究センター[RCIC]

産業文化研究センター[RCIC]は、IAMASの産官学連携、文化活動、広報活動を担うIAMASの附置機関である。



タイムベースドメディア・ガムランコンサート ゲスト：マルガサリ

タイムベースドメディア・プロジェクト主催によるガムランコンサート。ジャワガムラン・アンサブル「マルガサリ」をゲストに迎え、三輪眞弘学長による新曲の試演、古典楽曲の演奏が行われる。IAMAS楽団の演奏も予定。

主催：タイムベースドメディア・プロジェクト

このプロジェクトでは時間芸術、すなわち時間的経過の中で行われる様々な「表現」に注目し、「装置を用いた表現」と伝統的な芸能の習得／実践双方を通して、その可能性に取り組む。それは「機械」と私たちの身体との関係をめぐる探求であり、さらにメディアと人間存在との関係性を問うことでもある。今期はインドネシアの伝統芸能「ガムラン」「ワヤン」に着目し、実践的にその理解を進めながら分析を行った。加えて、オンライン上の表現として、ジェネラティブ・ストーリーミングの可能性を探った。

主なスケジュール

2.21 木	13:00 13:15	オープニング・セレモニー	2.24 日	11:30 12:30	ゲスト：高嶺 格 問題を引き受け、伝えること
2.22 金	16:00 17:30	これからの創造のためのプラットフォーム 映像表現と人類学		13:00 14:00	ゲスト：若林 恵 最適化が進む"明るい"未来
2.23 土	14:00 15:30	アートを／で考えるプロジェクト 境界とアート		14:30 15:30	ゲスト：石川 将也 日常から表現へ
	16:00 17:30	産業文化研究センター[RCIC] YCAM vs IAMAS		16:00 17:00	タイムベースドメディア・プロジェクト ガムランコンサート
				18:00 18:15	クロージング・セレモニー

他、修了生・プロジェクトによるトークイベントやライブパフォーマンスなど開催予定です。